

## 国際保健特論Ⅱ

更新日：2021/02/25 17:17:08

開講年度	2021	学期	後期	シバースト*	81020		
学年	1	曜日/時限		単位数	2.0	科目コード	810200
担当教員	小川 里美, 守山 正樹, 緒方 文子						
学部/学科	大学院 修士課程 保健コース 国際保健						
備考	必修/選択：専攻領域必修 授業形態：講義						

## 授業の目的

災害・国際協力、ヘルスプロモーションの各分野において、主要な概念、諸理論、方法論について探究し、各分野における専門性発展のための方法を検討する。

## 到達目標

1	コミュニティ・アセスメントの概念、理論、方法・手法を用いて、保健看護活動の計画、実施、評価を行うことができる。
2	健康の危機的状況を分析的にとらえる概念や理論を活用して、介入の課題を考察できる。

## DPとの関連

DP1 ○  
DP2 ◎  
DP6 (保健) ○

## 授業計画

1	<b>コミュニティ・アセスメントの概念</b> 【授業内容】コミュニティ・アセスメントの発展過程 【授業方法】講義 【担当】守山
2	<b>コミュニティ・アセスメントの実際①</b> 【授業内容】コミュニティ・アセスメントの場面と展開について 【授業方法】講義 【担当】緒方
3	<b>コミュニティ・アセスメントの実際②</b> 【授業内容】地域特性・健康課題のアセスメントについて 【授業方法】講義 【担当】緒方
4	<b>コミュニティ・アセスメントの実際③</b> 【授業内容】大学院生によるプレゼンテーション 【授業方法】講義 【担当】緒方
5	<b>コミュニティ・アセスメントの実際④</b> 【授業内容】大学院生によるプレゼンテーション 【授業方法】講義 【担当】緒方
6	<b>コミュニティ・アセスメントの実際⑤</b> 【授業内容】大学院生によるプレゼンテーション 【授業方法】講義 【担当】緒方
7	<b>自然災害時の健康と看護①（急性期・慢性期）</b> 【授業内容】災害急性期・慢性期の特徴、健康問題と看護 【授業方法】講義 【担当】小川
8	<b>自然災害時の健康と看護②</b> 【授業内容】災害復興期、静穏期・準備期の特徴と看護 【授業方法】講義 【担当】小川
9	<b>人為的災害時の健康と看護①（紛争下にある人々の健康）</b> 【授業内容】武力紛争時の健康課題と看護について 【授業方法】講義 【担当】小川
10	<b>人為的災害時の健康と看護②（難民・避難民の健康）</b> 【授業内容】難民・避難民の健康課題と看護について 【授業方法】講義 【担当】小川

11	<b>開発協力①保健人材開発の戦略と課題</b> 【授業内容】 開発協力の編成と人材開発について 【授業方法】 講義 【担当】 小川
12	<b>開発協力②開発途上国における保健人材育成の取り組みの実際</b> 【授業内容】 保健人材育成の実際について 【授業方法】 講義 【担当】 小川
13	<b>災害・国際協力、ヘルスプロモーションに関する最近の国内外の文献（事例を含む）を大学生が選択し、抄読・クリティークを行う（1）</b> 【授業内容】 大学院生によるプレゼンテーション 【授業方法】 講義 【担当】 小川、守山、緒方
14	<b>災害・国際協力、ヘルスプロモーションに関する最近の国内外の文献（事例を含む）を大学生が選択し、抄読・クリティークを行う（2）</b> 【授業内容】 大学院生によるプレゼンテーション 【授業方法】 講義 【担当】 小川、守山、緒方
15	<b>災害・国際協力、ヘルスプロモーションに関する最近の国内外の文献（事例を含む）を大学生が選択し、抄読・クリティークを行う（3）</b> 【授業内容】 大学院生によるプレゼンテーション 【授業方法】 講義 【担当】 小川、守山、緒方

### 学習方法

授業は、教員による講義および院生によるプレゼンテーションとディスカッションにて進めます。プレゼンテーション資料は、前週までに提示してください。各院生は事前学習を行い、授業に参加してください。

### オフィスアワー

金曜日の昼休み、もしくはメールで事前に連絡をとってください。  
[s-ogawa@jrckicn.ac.jp](mailto:s-ogawa@jrckicn.ac.jp)（小川）、[ma-moriyama@jrckicn.ac.jp](mailto:ma-moriyama@jrckicn.ac.jp)（守山）、  
[a-ogata@jrckicn.ac.jp](mailto:a-ogata@jrckicn.ac.jp)（緒方）

### テキスト

特に指定しない

### 参考文献

国際保健特論Ⅰに準ずる。他、適宜紹介する。

### 評価方法

授業への参加度（10%） プレゼンテーション（40%） レポート（50%）